

 海洋生物 ※漁業法の保護対象となる種も含まれますのでご注意ください

No.	名前	写真	説明	撮影者	撮影日	撮影位置情報
1	イソガニ		海水の汚れの少ない磯を好みます。中潮帯(干潮と満潮の潮位の間ぐらい)の岩場に潜み、すばしっこいので素手で捕まえるのは容易ではありません。色の変異は少なく、ほぼ写真のような見たいをしています。	運営事務局	2022/4/1	41.868308, 140.115536
2	ヒライソガニ		海水が多少汚れている場所でも生息できます。やや深い低潮帯(干潮時に現れる場所)の石の下に潜んでいて、磯遊びでよく捕まえられるのはこの種。色の変異が著しいため、逆三角形の甲形で見分けます。	運営事務局	2022/4/1	41.868328, 140.115644
3	ホッケ		ホッケ釣りのピーク時に実施した春版では多くの鮭が釣れていました。江差の岩場には成魚となり定着する「ネボッケ」が1年通じて生息します。成長度合いなどで「アオボッケ」「ロウソクボッケ」などと呼ばれます。	みらいジュニア 研究員	2022/5/15	41.870951, 140.115229
4	ハスノハカシパン		ウニやヒトデと同じ棘皮(きょくひ)動物。平べったく表面を黒に近い紫色の短い棘が無数に覆います。夏は前浜の浅瀬にもいるので、是非観察してみてください。夏以降、ゆっくりと深いエリアに移動するようです。	運営事務局	2022/5/22	41.867224, 140.116247
5	ガジ		深い場所にも生息しますが、潮間帯の砂泥底や藻場などにもいるためカニ釣りではよく出会います。細長い形と、背びれの5~6つの丸模様で見分けられます。写真の個体は10cm未満のものですが、20cm程度になります。	運営事務局	2022/6/1	41.868313, 140.115750
6	アムールエビジャコ		砂エビとも呼ばれ、北海道ではふつうに見られます。初夏の内、砂浜の波打ち際をチョロチョロ泳ぎ回っています。細かい斑紋がまるで砂のように見えるので、よく目を凝らさないと見つけられないかも知れません。	運営事務局	2022/6/11	41.866582, 140.116207

7	ツメタガイ		砂の中に潜っているので、貝殻はよく見かけるものの写真のように移動している最中を見かけるのはまれです。アサリなどの二枚貝に穴をあけ食べるので、厄介者扱いされがちですが「スナチャワン」を作る器用な面も。	運営事務局	2022/6/21	41.867763, 140.115406
8	スナチャワン (ツメタガイの卵塊)		砂浜近くをのぞいていると、茶碗をひっくり返したようなものを見かけることがあります。これはツメタガイの卵塊「スナチャワン」です。卵を、体液と砂を混ぜたものと一緒に整形したものをこう呼びます。	みらいジュニア 研究員	2022/7/30	41.870330, 140.115948
9	ウミタナゴ幼魚の群れ		水中ドローンでスナチャワン撮影中、ずっと近くを泳ぎ回っていました。淡水魚のタナゴに似ていることから名前が付けられましたが、同一種ではありません。岩場や水上遊歩道からも群れの姿を観察できます。	みらいジュニア 研究員	2022/7/30	41.870212, 140.115986
10	クモガニ科の仲間(死骸)		北海道では磯場でクモガニ科の姿を見かける機会はあまり多くなく、小さな死骸を収めたこの写真だけでは同定困難でした。次の機会に探してみたいと思います。	みらいジュニア 研究員	2022/7/30	41.870565, 140.115257
11	コツブムシの仲間		海水サンプルをデジタル顕微鏡で観察し、発見しました。明度不足で種の同定には至りませんでした。が、“海のダンゴムシをみんなで観察することができました。”	みらいジュニア 研究員	2022/7/31	41.870354, 140.115843
12	サケ(秋鮭)		秋鮭水揚げ初日に開催した秋版でオスを2匹購入し、捌いて石狩鍋にして味わいました。アニサキスの正しい加熱処理を学び、捌いている最中には実際の寄生の様子も確認できました。	みらいジュニア研究員	2022/9/10	41.873519, 140.117838

13	ニシンの放精(群来)		2017年におよそ百年ぶりに観測された群来。その後、2020年・2023年と3年おきに観測されています。浅瀬に戻ったオスの群れが放精し、前浜の湾内が乳白色に。メスの産卵も確認。ニシンが戻ってくる良い兆候と期待。	運営事務局	2023/2/18	41.867928, 140.115968
----	------------	---	---	-------	-----------	--------------------------

 **鳥類** ※自然な距離での撮影・観察のみにとどめ、餌付け等は絶対にしないでください

No.	名前	写真	説明	撮影者	撮影日	撮影位置情報
1	アオサギ		日本にいるサギの仲間では一番大きく、体の上面が灰色。昔の人はこの灰色を「あお」と表現していたためアオサギと呼ばれます。江差では年間通してよく見られ、河口付近や海辺で採餌している様子を見かけます。	専属カメラマン	2022/4/16	41.867154, 140.112979
2	イカル(死骸頭部)		ずんぐりして全体的には灰色ですが、羽先と頭部が黒、太いくちばしは黄色い夏鳥です。「キーコキー」という鳴き声はたまに耳にしますが、なかなか見かけることはできません。猛禽類に捕食されたようです。	専属カメラマン	2022/5/12	41.866051, 140.117807
3	インヒヨドリ		かもめ島で見られる野鳥の中でも、比較的見かけやすい種類です。オスは青と赤褐色で見ごたえがあり、日本海側の岩場エリアが観察ポイントです。最近では町中でも見かけるようになってきています。鳴き声も綺麗です。	専属カメラマン	2022/4/20	41.870676, 140.114825
4	カワラヒワ		いつも複数羽で楽しげに行動しています。オリーブ色の体に薄ピンクのくちばしが可愛い小型の鳥。4月～10月の間は、かなり簡単に見ることができます。開陽丸記念センターの緑地エリアでも見ることができます。	専属カメラマン	2022/4/7	41.865673, 140.112948
5	ヒヨドリ		江差では夏の間だけ見かけなくなりますが、秋から初夏までは多く見られる鳥です。茶色のほっぺがトレードマーク。島にもよくやって来ますが、間違えて建物施設に入り込んでしまったところを撮影。	運営事務局	2022/5/21	41.867153, 140.115862

6	ハクセキレイ		人間の居住エリアでも暮らせるハクセキレイは島でも多く見られます。尻尾を振りながらトコトコと走り回り、割と至近距離まで近づいても飛び立ちません。写真は海上遊歩道上で交尾中のつがいです。	運営事務局	2022/5/25	41.869262, 140.115854
7	キジバト		北海道では春から秋にかけて、市街地より山側に生息するハトの仲間ですが、よく島の電線にとまっています。よく耳にしても正体のわからない「謎の鳴き声」の張本人。「ヤマバト」と呼ばれることもあります。	運営事務局	2022/6/4	41.868309, 140.114819
8	オオヨシキリ		ヨシの茎に切り裂いて虫を捕食することからヨシキリといわれます。島で見られるのは珍しく、鳴き声で気付き撮影。巖島神社向かいの木立にとまり、周囲を警戒していました。確認できたのはこの日だけでした。	運営事務局	2022/6/5	41.869543, 140.115699
9	ヒバリ		春になると遙か上空でホバリングしながら絶え間なくさえずり続けるのがヒバリ。この時期毎日鳴き声を聞いていますが、島に下りて留まることはあまりないようです。何度か撮影に挑戦し、何とか撮れた一枚です。	運営事務局	2022/6/25	41.869109, 140.115064
10	ハヤブサ		毎年、必ず1羽は馬岩付近の崖に営巣しています。夏版では巣にいる姿を確認できないかとドローンを飛ばしてみたところ、見事撮影に成功。刺激しないように遠くからの撮影だったので別アングルの写真を載せます。	みらいジュニア 研究員	2022/7/30	41.865880, 140.113279
11	オオセグロカモメの幼鳥		初見で見分ける自信はありませんが、この2羽はヒナの時から見続けている「瓶子岩の主」の子どもたちです。秋には、親鳥が捕まえてきた弱った魚を捕まえる練習をしている様子も見られました。常に一緒でした。	運営事務局	2022/9/11	41.867205, 140.115973

12	ウミウ		ウミウも、島で通年非常に多く見られる鳥です。潜水のプロフェッショナルだけあり、潜った場所と浮上してくる場所の距離がかなりあります。日中は岩場や堤防などで羽を乾かしている様子も見かけます。	運営事務局	2022/11/2	41.867379, 140.116623
13	ウミアイサ		写真はオス。立派な冠羽と赤いくちばしがイカしたオシャレさんです。冬になると前浜のブイ付近はカモの種類がたくさん集いますが、ウミアイサはやや遠い場所にいることが多いので観察には双眼鏡が必要でしょう。	運営事務局	2022/12/8	41.868790, 140.117157
14	ヒメウ		ウミウと違い、ほぼ全身真っ黒なウ。奥尻島では通年観察できるようですが、なぜか島のヒメウは夏に姿を消してしまいます。より良い採餌場でもあるのでしょうか？夜の間、写真のように崖に身を寄せ過ごしています。	運営事務局	2022/12/8	41.864482, 140.113018
15	カルガモ		ほぼ毎日見ることができるので、あえての撮影は初めてとなりましたが、オスは意外にキレイな色の羽を持っているのですね。冬は砂浜でも見られますが、夏は外洋側の岩場入り江のほうが見るチャンスはあります。	運営事務局	2023/1/12	41.869494, 140.112876
16	クロガモ		カモの仲間の多くは冬の終わりと当時に島を離れます。クロガモも同様ですが、1～12月に限っては見られる機会もかなり増えるでしょう。くちばしの上の黄色いコブがトレードマークです。単独が多いようです。	運営事務局	2023/1/12	41.863564, 140.121469
17	シロカモメ		いつもオオセグロカモメを見慣れているため、シロカモメがいると嬉しくなります。大型のカモメの中でも最も大きいので威厳があり、近くに来るとやや恐怖さえ覚えます。全体数とすると、そう多くはありません。	運営事務局	2023/1/18	41.866531, 140.114572

18	マガモのつがい		カモというとマガモのオスの姿を思い浮かべる人も多いと思います。近隣にはたくさんいるのですが、島周辺に限るとあまり近寄らないようです。愛宕町バス停近くの消波ブロックを好んで活動域にしています。	運営事務局	2023/1/21	41.868377, 140.120116
19	ヒドリガモのつがい		島ではカルガモ・シノリガモに次いでよく見かけるカモです。オスは頭部が茶色く、額部分が明るい色になっていて見分けるのが簡単です。また、ほかのカモに比べれば、近付いて見ることでできる種でもあります。	運営事務局	2023/1/22	41.867286, 140.117522
20	ワシカモメ		羽の汚れた個体か幼鳥と勘違いされそうですが、別の種です。特に冬場、防波堤や消波ブロックにいるカモメの大群をじっくり観察すると、結構な頻度でワシカモメが混じっていることがあります。	運営事務局	2023/1/23	41.866319, 140.114395
21	ハギマシコ		この冬かなりの頻度で確認されました。境内で地面を突っついていたり、灯台下の岩場にいたり見る場所は異なりましたが、だいたい数匹の群れで確認しています。翼の一部や腹、脇などのピンク色が綺麗です。	運営事務局	2023/1/23	41.869872, 140.113770
22	カンムリカイツブリ		写真はオス。夏羽では立派な冠羽を持つので、この名前がついています。カモの群れの少し先で、頻りに潜水している首の長い鳥がいたらこの種です。この年は非常に多くの個体数が見られました。	運営事務局	2023/1/28	41.867901, 140.115636
23	スズメ		以外にも島ではこれまであまり見かけませんでした。階段から見下ろせる茂みでまん丸に羽毛を膨らませ、じっとしていました。住居が近くにあるためエサでも求めて来たのでしょうか。	運営事務局	2023/1/30	41.867657, 140.115142

24	シノリガモ		特にオスはとてもユニークな模様なので、覚えたら見間違えることはないでしょう。冬のかもめ島の常連さんで、ほぼ毎日時間を問わず、前浜か港湾内を泳いでいます。初めて見たときの嬉しさは断トツだと思います。	運営事務局	2023/1/31	41.868926, 140.116028
25	スズガモ		写真ではわかりにくいですが、オスの頭部はふっくらした光沢のある濃緑色の毛。脇腹部分が白いカモが遠くにいるのを見つけたら、スズガモかキンクロハジロです。羽が白っぽければスズガモでしょう。	運営事務局	2023/1/31	41.867911, 140.118615
26	キレンジャク		木立の上で小さなさえずりを聞いたので見上げたら群れがとまっていました。羽の一部と尾の先が鮮やかな黄色です。運動公園で多く見かけるため、この日は気まぐれで島へやって来ただけかもしれません。	運営事務局	2023/2/3	41.866401, 140.113512
27	ヒレンジャク		キレンジャクの赤色バージョンです。10羽程度のキレンジャクの中に2羽ヒレンジャクが紛れていました。一緒にいることが多い2種ですが、江差で見かける場合キレンジャク>ヒレンジャクの割合です。	運営事務局	2023/2/3	41.866354, 140.113475
28	キンクロハジロ		島では初めて見ました。スズガモの中に冠羽が目立つ鳥がいたので調べてみたところこの種でした。うまく写真に収められなかったので、皇居の外濠で撮影した写真を転用します。初めての確認は嬉しいものです。	運営事務局	2023/1/31 (確認日)	41.868349, 140.118925
29	オジロワシ		今年度最大の成果でした。昔は冬になると良く見かけたものです。この日と翌日、島の上空を飛んでいましたが、木にとまったりすることなく旋回しながら獲物を探し、間もなく陸側へ戻っています。	運営事務局	2023/2/25	41.864797, 140.112330

30	ゴジュウカラ		クロマツでカサカサ聞こえる音を頼りに発見。キツツキの仲間のように幹にへばりついたりしながら、樹皮の奥の虫を探している様子でした。近付いても警戒を忘れるほど熱中していたようです。	運営事務局	2023/3/5	41.869177, 140.115571
31	トンビ		たまに見かけますが、この日は洋上を巡回していました。トンビは英名カイト「凧」を意味する名がついています。南半島に集まる小鳥を探していたようですが、完全に目があいました。	運営事務局	2023/3/11	41.862577, 140.109513
32	ツグミ		雪解け後の南半島でよく見られます。地面をすばしっこく駆け回り、採餌しているようです。気配を感じると茂みに隠れますが、じっとしているとすぐ戻ってきて、まるでかくれんぼをしているようで可愛いです。	運営事務局	2023/3/11	41.865040, 140.112746

 **は虫類** ※島は檜山道立自然公園内のため、採集は禁じられています

No.	名前	写真	説明	撮影者	撮影日	撮影位置情報
1	ニホンカナヘビ		ニホントカゲと混同している場合も多いようですが同種もしっかり確認できました。体の2倍もある長い尾が特徴です。茂みのほか島の倉庫軒下も隠れ場所になっているようで、この日以降よく遊びに来てくれました。	運営事務局	2022/9/17	41.867378, 140.114736

 **昆虫** ※島は檜山道立自然公園内のため、採集は禁じられています

No.	名前	写真	説明	撮影者	撮影日	撮影位置情報
1	ミンミンゼミ		黒っぽい体に緑または水色の斑のある、セミの代表格。島ではあまりセミの鳴き声を聞くことがありません。今年もほぼ記憶にないのですが、豊かな樹木エリアもあるので、少ないながらも世代をつないでいるのかも。	運営事務局	2022/8/14	41.868493, 140.114126

2	ミヤマカラスアゲハ		色彩が鮮やかで、翅の裏表に白っぽい筋があるのを確認しているため、ミヤマカラスアゲハと判断しました。カラスアゲハもいるのですが、島ではこちらの種を見る機会が多いかも。よくアザミの花にとまっています。	運営事務局	2022/8/20	41.868926, 140.114640
3	サシガメの仲間		北海道に生息しているサシガメの中では白黒のモンシロサシガメが近いのですが、写真の通り茶褐色です。オオトビサシガメに近いように見えます。アカギカメムシも見つかったくらいですから、意外にそうなのかも。	運営事務局	2022/10/26	41.867002, 140.116492

 **植物** ※島は檜山道立自然公園内のため、採取は禁じられています

No.	名前	写真	説明	撮影者	撮影日	撮影位置情報
1	キバナノアマナ		4月にいち早く黄色い花をつける、春を告げる花です。球根なので例年同じような場所で見られ、島ではテカエシ台場周辺や南半島など広域に分布します。花が黄色く葉が甘いことが名前の由来だとか。	公式カメラマン	2022/4/7	41.865651, 140.112895
2	コモチレンゲ		昨年アオノイワレンゲと紹介しましたが、鷗島植物目録にこの表記がなく、1年通じて観察した様子からコモチレンゲに訂正します。写真のようにランナー(走出枝)を伸ばして増える多肉植物です。	公式カメラマン	2022/4/16	41.870307, 140.114671
3	スイセン		水仙は日本人にはとてもなじみの深い花です。よく畑縁に植えられる慣習があり、島でも畑を中心に広がるように分布しています。おそらく、野生化して分布域を広げているのではないのでしょうか。	公式カメラマン	2022/4/20	41.866858, 140.114334
4	サクラ		鷗島植物目録によると、島にはウコンザクラとサトザクラが咲いているようです。分布は巖島神社境内に限定され、いずれの木も人が植樹したものです。市街地よりやや遅れて開花するようです。	公式カメラマン	2022/4/25	41.869452, 140.115350

5	ハマハタザオ		春になると、刈り込まれる前の芝生エリアあちこちで顔を出します。白い花の房が風に揺れるさまが旗竿に例えられました。葉や茎に白い毛が生えています。典型的な海浜植物のひとつです。	公式カメラマン	2022/4/26	41.868015, 140.114458
6	エゾエンゴサク		人里や山地の谷間に生育する本種も、島内で見ることができます。キバナノアマナにやや遅れ、島の限られた場所に大群落をつくる、春の花。主に東側斜面で、青や紫のじゅうたんのようには咲き誇ります。	運営事務局	2022/5/2	41.867550, 140.115068
7	オオアマドコロ		境内の高いところに生育しており、研究員のみんなが見上げるほどの高さがありました。草丈Mはあったでしょうか。ユリ科の植物で、地下茎がヤマノイモ科のトコロに似ており、食べると甘みがあるのが名前の由来。	みらいジュニア 研究員	2022/5/15	41.869573, 140.115518
8	オオバナノミミナグサ		ミミナグサも咲いているようですが、この日観察したのは本種。ミミナグサよりも花がはるかに大きくなります。山地の草原のほか、海浜も好んで生育する種です。神社周辺の茂みあたりに多く咲いています。	みらいジュニア 研究員	2022/5/15	41.869793, 140.115357
9	オドリコソウ		花の形が、花笠をかぶった踊り子に似ていることが名前の由来。直立した茎の先に白またはピンクの花がたくさん付き、初心者でも見分けやすく、名前も覚えやすいですね。正面階段の斜面などで見られました。	みらいジュニア 研究員	2022/5/15	41.867646, 140.115012
10	ハマヒルガオ		葉の形は見慣れたアサガオに似ていますが、海浜植物なのでやや厚みと光沢があるのが特徴。6月ぐらいにはアサガオに似た薄紫の花もつけます。島の入り口の木道脇に多く生育しています。	みらいジュニア 研究員	2022/5/15	41.867325, 140.115699

11	マイヅルソウ		こちらは花の形が、鶴が羽を広げて舞う姿に似ているため命名された植物。似た場所に咲くオドリコソウとセットで覚えるといいですね。秋には赤く透きとおった実もつけます。大きなハート形の葉も特徴のひとつ。	みらいジュニア 研究員	2022/5/15	41.867401, 140.115164
12	ヨブスマソウ		かつてヨブスマと呼ばれていたコウモリやムササビが名前の由来ともされています。大きな三角形の葉が特徴で、大きいと2Mに育つこともある山菜の一種。階段横、民家の裏庭で観察できます。	みらいジュニア 研究員	2022/5/15	41.867384, 140.115243
13	ラワンブキ		フキの仲間の中で最大の大きさになり、初めて見るとびっくりします。足寄町周辺が産地として有名で、島の階段周辺で見られるものはおそらく栽培したものとそれが野生化したものと思われます。	みらいジュニア 研究員	2022/5/15	41.867393, 140.115318
14	エゾカンゾウ		島には大型のユリに近い花が3種咲きますが、見かける頻度が高いのはこの種。松林のほか、崖の突端などにも旺盛に生育しています。「エゾスカンユリ」「オニユリ」は橙色で黒斑のある花なので見分けは簡単です。	運営事務局	2022/6/5	41.868943, 140.115401
15	エゾネギ		アサツキに近い種で食用可、チャイブという名前でも知られています。夏には紫のポンポンのような花をつけます。日本海側の岩場、特にキネツカ台場や千畳敷降口に行くことができます。	運営事務局	2022/6/26	41.869997, 140.114605
16	ハマナス		前年は実の画像で紹介していますが、島を代表する海浜植物なので改めて花もご紹介。甘い匂いに誘われ、たまにヒタキ科の小鳥が訪れます。バラ科で棘があり、春～夏はチャドクガの幼虫が付きやすいので触れないで。	運営事務局	2022/6/26	41.870532, 140.114922

17	ツリガネニンジン		キキョウ科ですが見た目はスズランのように可憐な釣鐘型。根が朝鮮人参に似ているのが名前の由来です。神社境内や散策道で見かけます。近種のシラゲシャジンが混じって咲きますが同種は白っぽく毛が密集しています。	運営事務局	2022/9/5	41.869175, 140.115337
18	シロバナモウズイカ		別名は、なんと町名を冠した「江差草(エサシノウ)」! 道南、特に江差町で多く見られるためこう呼ばれていますが、残念ながら島ではわずかに階段付近で見られる程度。町民として大切にしていきたい種です。	公式カメラマン	2022/9/11	41.867290, 140.115645
19	エゾカワラナデシコ		鷗島植物目録に従い、同種と同定しています。特徴的な花の形をしていますね。6~9月、日本海側散策道脇で見つけられます。海浜植物ではないですが、北海道では海岸近くにも多く咲くようです。	運営事務局	2022/10/7	41.866523, 140.113679
20	エゾフウロ		前年チシマフウロとしていましたが、鷗島植物目録の発見(エゾフウロと同定)ならびに海岸分布という点から本種に訂正します。分布は島広域にわたりますが、町側よりも日本海側に多い印象。花期は7~10月初旬。	公式カメラマン	2022/10/9	41.870030, 140.114748
21	カシワのドングリ		境内にはカシワの木もあります。こちら人も植樹したもの。近くにはクロマツもあるので、秋には松ぼっくりもたくさん落ちていて賑やかです。※今年の登録漏れ分の追加登録となります。	かもめ島研究員	2021/10/9	41.869281, 140.115421
22	デイジー(トキシラス)		お庭の脇役として知名度の高い本種も、野生で普通に見られます。その名の通り、暖かければ春でも晩秋でも花をつけ、芝生エリアに彩りを加えています。野に咲く北国の花として愛されている花です。	運営事務局	2022/10/24	41.867810, 140.114380

23	マサキ		民家の生け垣に広く用いられるマサキ。島では日本海側の散策道沿いに植樹されており、ちょうど実をつけていたので撮影。冬場でも緑を絶やさず、島をひっそり守り続けてくれています。	運営事務局	2022/12/6	41.868413, 140.113997
----	-----	---	---	-------	-----------	--------------------------

#### <観察情報>

5/15 海洋学習イベント「みらいジュニア研究員 春～海と日本PROJECT～」にて、みらいジュニア研究員・北海道大学 学生が撮影  
2022年4月～2023年3月 運営事務局職員および専属カメラマンが「みらいジュニア研究員 夏～冬」中および業務中に撮影  
(夏版7/30、秋版9/10、冬版2023/1/14)

#### <協力(自然観察ガイド・種の同定・調査など)>

北海道大学 水産科学研究院 国際教育室(海洋生物)  
絵本サークルポポリン(植物)  
一般社団法人 北海道江差観光みらい機構(昆虫、鳥類)

#### <参考資料>

「江差(檜山支庁)鷗島植物目録」 編纂 森田 徹  
調査  
明治23～24年 ウルバイン・フォーリー(仏)  
追調査  
昭和20～26年 菅原 繁蔵